

ストレージライフ

特集

ハローストレージ利用者インタビュー

No.10 シエロウンドシンフォニー様
No.11 永瀬様／No.12 犬飼裕介様

4

Storage Life
Information Magazine

2025-Dec.



師走を迎え、今年も残すところあとわずかとなりました。朝晩の冷え込みが身に染みる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

最近、都市部を中心にトランクルームの需要は急速に拡大し、單なる「収納スペース」ではなく、利用者一人ひとりのライフスタイルに寄り添い、新たな価値を生み出す存在として注目を集めています。

今回の特集では、吹奏楽団の財産管理、人生の大きな転機、そして趣味の充実という、様々な背景を持つ利用者が、トランクルームを通じてどのように豊かな暮らしや心のゆとりを手に入れたのかをご紹介します。

本誌が、皆様の豊かな暮らしのヒントとなることを願っています。
ストレージライフ編集部一同



特集

ハローストレージ利用者インタビュー

No.

10

吹奏楽団の資産を守り、活動を支える「始まりと終わり」の場所

ハローストレージ利用歴
約9年5ヶ月シェロウンド
シンフォニー 様

我々は、団員約45名の社会人吹奏楽団です。活動を続けるうちに楽器や楽譜が増え、置き場所に困ったことがトランクルーム利用のきっかけでした。練習場所には楽器を置いておけないため、車で5分ほどの距離にあるハローストレージに、楽器や楽譜を収納しています。

ハローストレージを選んだのは、立地と料金が大きな決め手でした。予算は団費から捻出しているので、なるべく

抑える必要があり、他社と比較して一番安かったハローストレージの2階を選びました。また、他社の地面が砂利だったのに対し、ハローストレージはアスファルト舗装だったのも、楽器を運ぶ上で利点でした。以前は2帖の部屋を使っていましたが、荷物が増え、動線を確保するために8帖の部屋に移動しました。広い部屋にしたこと、雨の日には中で楽器を拭いたり、複数人で作業ができるようになりました。

収納している楽器や楽譜は、団の財産です。大切な楽器や楽譜を守るため、収納には工夫を凝らしています。メンバーみんなでラックを自作したり、小さな太鼓のためにクッションスponジを入れたり。地震対策としてラックと天井の間に耐震ポールも付けています。

社会人が中心の団体なので、一番助かっているのは24時間いつでも出し入れできる点です。誰かの自宅に置いていると、他のメンバーが使いたい時に自分のタイミングで取りに行くことができず不便でしたが、トランクルーム



忘れ物がないように、ホワイトボードで出したもの・しまったものを管理。



練習後、夜に楽器を収納することもあるため、LEDライトを設置。



だと各々が仕事終わりに自由に利用できるので、気持ちの面で楽になりました。

複数名で出し入れを行うので、管理方法には工夫をしていて、都度ホワイトボードに出したものの・しまったものを記すようにしています。また、すべての楽器、小物や備品、スタンドに至るまで、一本ずつ番号を付与し、年に一度、棚卸を実施してすべてが揃っているかの確認もしています。

演奏会や練習の前と後には必ずみんなで来るので、トランクルームは私たちにとって「始まりの場所であり、終わりの場所」です。練習が終わって楽器を運び入れ、みんなで「おつかれさま」「また来週」と一息つける場所です。この時間が結構好きなんですよね。



市販のラックを楽器収納として活用。ポールにクッションを巻きつけ、楽器に傷がつかないように工夫。

「トランクルームで、暮らし方が変わる、生き方も変わる」
トランクルームが叶える理想的な生活をいち早く実践する利用者の方々へインタビュー。

No.

11

実家じまいという「人生の転機」を 支える便利な場所

ハローストレージ利用歴
約8ヶ月

永瀬 様



昨年98歳の父が亡くなり、「実家じまい」を始めました。正直、何から手をつけていいか分からず困っていましたが、大量の荷物を前に、まずは整理、仕分けをするためにも一旦荷物を外に出す場所が必要だと感じました。

そこで探し始めたのがトランクルームです。内見に行ったら想像以上に施設内が綺麗だったことと、実家と職場の間に立地の良さもありハローストレージに決めました。最初は広すぎるかなと思った3.6帖サイズのお部屋

も、実際に荷物を整理したり出し入れしたりするとこの広さでちょうど良かったと感じています。

屋外型も検討しましたが、雨天時の出し入れで大切な荷物が濡れてしまうのが気になり、少し値段は高くなりますが屋内型を選びました。個室に加えてエントランスにもセキュリティが備わっており、大事なものを入れておくのに安心です。実家から持ってきた家具、家電、洋服、そして私の初節句からある雛人形を収納しています。また、私は接骨院を営んでおり柔道整復師をしているのですが、資格を取るのに必要な柔道着も収納しました。もし娘や孫に接骨院を継いでもらうことになればこの柔道着は譲るかもしれませんので、大切にとっておきたかったんです。

トランクルームの利用を始めて、身の回りに大きな変化がありました。実家の中で物が積み上がっていると整理作業が大変でしたが、確実にとっておきたいものをトランクルームに入れてしまうことで、実家に整理整頓をするためのスペースが生まれました。荷物を一旦外に出したこと、どう整理していくかの方向性が見えてきました。おかげで作業がしやすくなりました。

トランクルームへの荷物の搬入は引越し業者さんにお願いしましたが、エレベーターがあって便利だと感謝されました。実家じまいを終えたら新しい家を建てたいと思っていますが、それまでは利用を続ける予定です。私にとってトランクルームは、人生の大きな転機を乗り切るための、なくてはならない便利な場所ですね。



屋内型トランクルームは台車があるため、重い荷物の搬入出に便利。



60年以上前の思い出の雛人形も大切に収納。



自分が使っていた柔道着。将来的に娘や孫に譲れるように。



特集

ハローストレージ利用者インタビュー

No.

12

生活を豊かにする「息抜きの場所」

ハローストレージ利用歴
約11年11ヶ月

犬飼 裕介 様



私がトランクルームを使い始めたのは2013年頃、趣味のバイクがきっかけでした。当初、マンションの敷地外にカバーをかけて置いていましたが、雨風や紫外線による樹脂の劣化が気になり、愛車を守れる場所を探し始めました。

ハローストレージを選んだのは、シャッターが使いやすいこと、そして地面がアスファルト舗装されているからでした。私のバイク(BMW K1200)は約260kgもあるので、下が砂利だと動かすのが大変なんです。他社のトランクルームも使いましたが、地面やドアの使いづらさから、結局ハローストレージに戻ってきました。

現在はバイクの他に、キャンプ道具、仕事の書類、そして娘から預かっている孫のベビーグッズなども収納しています。タイヤで床が汚れないように段ボールを敷いたり、地震対策として物を高く積まないようにして、愛車を守る工夫をしています。

利用は月に2~3回、バイクに乗る時に来ています。

自転車で来て、バイクに乗り換いたら自転車をトランクルームにしまう、というのがお決まりのパターンです。

トランクルームのおかげで、私の生活は大きく変わりました。以前は、自宅の一部屋を物置にしていましたが、愛車とともにその荷物を全てトランクルームに移したので、自宅にもう一部屋、寝室を作ることができたんです。寝室2部屋が別の方角にあるため、日当たりの都合で夏と冬で使い分けると快適に過ごせるようになりました。長期休暇で帰省した子供が泊まる部屋としても機能し、布団を出す手間もなくなりました。もう、トランクルームに入れた荷物は家に戻せないです。

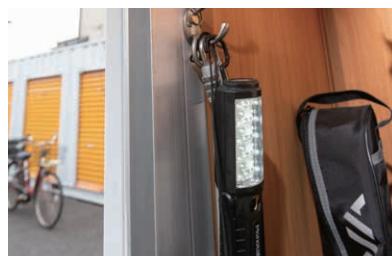
料金はバイクだけでなく他のものも置ける付加価値を考えると妥当だと思います。荷物をおくだけでなく、そこで軽く愛車を拭いたりすることもでき、私にとってトランクルームは「息抜きの場所」であり、居心地の良い空間となっています。



壁には痕の残らないタイプのフックを設置。



ラダーレールを使い愛車を出し入れ。



ダイヤル錠やLEDライトは、シャッター横のフックを活用。